

ガス水道局発注工事の談合疑惑は「やむやみにはさせない」

日本共産党議員団と市民有志が新潟地裁に提訴

4月30日、新潟地裁へ行ってきました。平成18年4月から平成23年6月まで、上越市ガス水道局発注の本支管工事において、談合があったとして新潟地裁に提訴したのです。

訴えの中身は、市長は談合に関わった12業者に対して、談合によって市に与えた損害額、1億3092万円を請求せよというものです。大勢のテレビ、新聞記者が取材にかけつけました。原告団は12人で、私が団長です。齋藤裕弁護士など2人の弁護士からついてもらいます。

提訴後、県弁護士会館で記者会見をしました。

弁護団の齋藤裕弁護士は、「談合が確実にあったと思われる期間（の入札）を対象にし



記者会見で質問に答える

齋藤弁護士と原告団

た。談合についてはかなり詳細な経過が分かっている。2社の内部告発に基づくものだが、県内でこれだけの規模の談合が明らかになったのはめずらしいし、これだけ証拠がそろっている入札談合もめずらしい。今回明らかになったのは氷山の一角だ。これを明らかにしなければ（全体は）明らかにならない」とのべました。

私にも提訴に至った思いなどについて質問がありました。私は、「今回ほど証拠がそろっている談合はない。ガス水道局の調査結果には満足していない。12社は談合した事実を否定、あるいはわからないとしているが、もっと踏み込んだ調査をすれば客観的な事実が明らかになるはずだ。有識者である監査委員の調査には一定の期待をしたが、残念ながら（事実）明らかにならなかった。今度は裁判のなかで白黒をはっきりさせる。議会やその他の場でこの問題をとりあげてきた結果、ガス水道局の入札に仕組みは昨年の4月から変わった。市長部局についても変わりつつある。しかし、肝心の談合疑惑についてはこのままではうやむやになってしまふ。これは許されな

とだ」とのべました。記者会見の様子は、当日のテレビ、翌日の新聞などで大きく報道されました。

恒例の山菜祭り賑やかに

日本共産党橋爪法一後援会主催の恒例の山菜祭りが、3日に行われました。農繁期であり、ゴールデンウィークのさなかにもかかわらず大勢の人たちから参加していただきました。ご協力いただきました皆さんありがとうございます。私の挨拶の後、上野、平良木市議が市政に



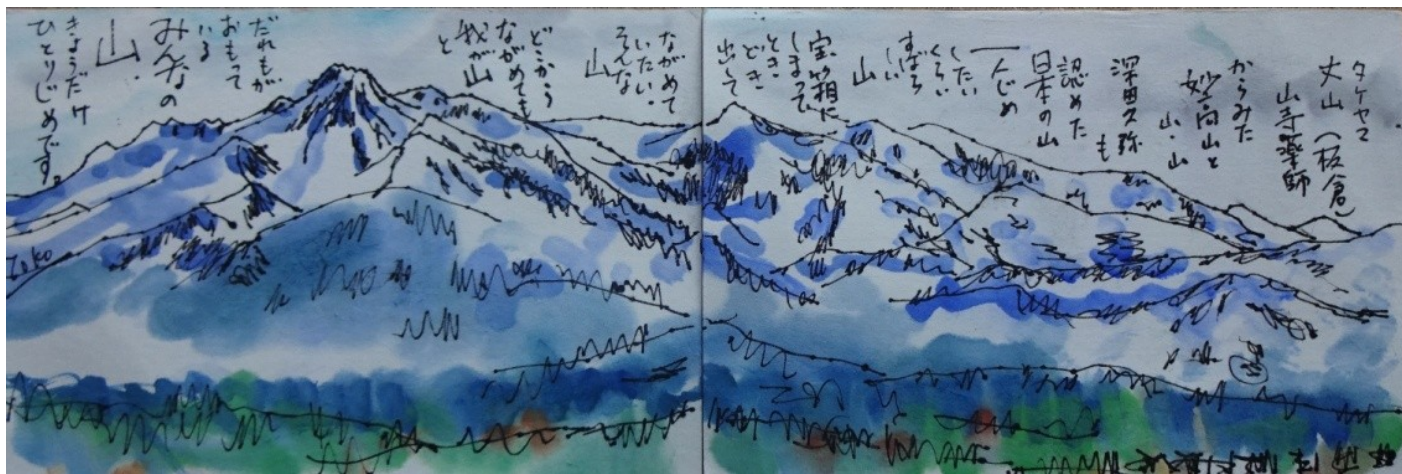
ついて報告してくれました。第2部の懇親会では、昔話あり、歌あり、ハーモニカ演奏あり、笑いヨガあり、方言丸出し漫才あり。これまで以上に盛り上がりました。



【サワハコベ】ナデシコ科の多年草。漢字で、「沢繁縷」と書きます。小さな川の近く、それも湿り気のあるところに咲いていました。近くには山菜であるコゴミもありました。写真は吉川区にて撮影しました。

頸城三山など描いた絵手紙届く

連休明け、高田のYさんから2枚のがきが届いていました。裏面を見ると絵手紙です。同じタッチの絵なので、横にくっつけてみると、なんと妙高から南葉方面の山々を描いたものでした。美しい作品です。紹介します。



頸城三山など美しい「みんなの山」、Yさんの絵手紙からその美しさとやさしさが伝わってきます。

はしづめ法一の活動レポート

No.1707 2015.5.17
 発行編集 日本共産党前上越市議 橋爪のりかず
 Tel 025-548-3628
 通じないときは 090-5392-1961
 E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
 URL <http://www.hose1.jp/>

ブログ「ホーセの見である記」はこちら

橋爪法一 検索

春よ来い

第三五五回

杉林の中で

五月はいい天気の日が続いていましたが、ここにきて、寒い日が続いたり、夏日になつたりと激しく変化しています。先日亡くなつた伯父の壇払い・納骨の日は風が冷たい日でした。

壇払いは午前一〇時から。家族、近くに住む親戚など一〇人ほどが伯父の家に集まりました。

始まる前に、参加者がお茶を飲みながら話をしたのは、虫場にある墓地と火葬場のことで。戸数が一番多かったときで八戸と小さな集落でしたが、墓地は一か所ではなく、橋爪、長谷川など同姓の家ごとに分散していました。ただ、火葬場だけは釜平という場所に一か所あるだけでした。「裸人足の人たちの仕事だったのかいね、雨が降ったときなんかたいへんだつたこて、はみ出た足などを整えなきゃならんし……」A子さんが子ども時代、火葬中の様子を見に出かけたことなどを昨日見たばかりのような調子で語ると、みんながうなずいていました。

火葬場の話などです。専徳寺住職のお経は約三〇分でした。お経が終わつた後、伯母を除く数人が骨箱、ロウソク、線香、スコップなどを分担して持ち、墓場へと向かいました。

墓場は伯父の家の裏山にあります。伯父の家との標高差は五〇メートル以上はあると思えます。道はまさに山道で、砂利ひとつ敷かれてない土の道です。五分くらいかけてゆっくり登りました。途中には、スマレやシャガが咲いていました。

みんなの目を集めたのは、亡くなつた伯父の仕事の跡が残つた杉林です。これまで見たことのある人も初めて見た人も、「まあ、きれいにしているね」「たいしたもんだ」などといった言葉を口にしていました。杉林の中は自分の家の庭と同等の丁寧さで掃除してあり、杉の枯れ葉などが見事に片付けられていたのです。

杉林の中の掃除のことから、伯父が杉にかけた思いについても話は広がりました。長男である従弟の話によると伯父は生涯かけて杉苗を約五〇〇〇本植えたそうです。どちらかというと密植だつたとか。植えた苗は豪雪などのために十分生長できなかったものもずいぶんあつたといひます。最終的には、まともに生長した杉の確率は一〇〇本に一

本くらいだつたのではないかといいました。それでも伯父の家の裏山にある杉林には、一〇〇本くらいの杉の木があつたでしょう。いずれも伯父の家の裏山にある杉林には、一〇〇本くらいの杉の木があつたでしょう。いずれも伯父の家の裏山にある杉林には、一〇〇本くらいの杉の木があつたでしょう。

伯父の家の墓は比較的小さなもので、墓石のなかに伯父の骨を納める空間はありませんでした。墓の隣に縦四〇センチ、横五〇センチ、深さ四〇センチほどの穴が掘つてあり、そこへ従弟が骨箱に入つた骨をゆつくりとあけました。それでも伯父の骨はカラカラという音を立てました。骨の上に土をかけるのは私の役目になりました。乾いたきれいな土をスコップで入れ、あとで沈んでへこまないようにと、平らではなく少し高くしました。

納骨の儀式が終わわり、杉林の下の方のところに積まれたコンクリートブロックの積み方があまりにもきれいで、見事だつたからです。これも伯父が土方仕事で身につけた技術ですが、その丁寧な積み方のなかに伯父の几帳面で、真面目な性格が表れていました。生きていれば、伯父もニコニコして説明してくれたでしょう。

戦争の愚かさ、悲劇伝える体験談がCDに



左の写真はこのCD、『戦争の愚かさ、悲劇伝える体験談』のジャケット写真。

上越市有線放送電話協会のある職員さんから先日、「橋爪さんが議会でとり上げておられた戦争体験のCDができました。職員が届けますので、ぜひ感想を聞かせてほしい」と連絡がありました。3月市議会での私の一般質問で、村山市長は「新年度、公益社団法人上越市有線放送電話協会との共催で、戦争体験談集の朗読放送とその内容を録音したCDを制作する」と答えていましたが、それが出来上がったのです。

このCD、正式には『戦争の記憶～朗読・上越市民の戦争体験』というのですが、この日の夕方、わが家に届けられました。CDは、市が収集した戦争体験談集のなかから12人の体験文を選び、市民グループ、「読み語りジャックの会」のみなさんに朗読してもらつたものです。私は市の発行した戦争体験談集をすべて読んでいますが、今回のCDのなかにはこ

れまで私が議会などで紹介したことのある、大竹ハルエさんの直江津空襲目撃証言や箕輪幸男さんのお母さんについての苦労話などが盛り込まれていました。いずれも多くのみなさんに知ってもらいたいものばかりです。それが今度は味のある朗読によって、音声で伝えられることになったのです。

CDを聴いてみましたが、朗読もまたいいものですね。証言の中身がよくイメージできます。ラジオなどで繰り返し、放送されるといいかも知れません。いずれにせよ、「戦争の愚かさやそこに生まれた悲劇や苦労について知り、平和の尊さを」（有線放送電話協会）学ぼうえで大きな役割を果たしてくれるにちがいません。

このCDは上越市共生まちづくり課と上越市有線放送電話協会、高田図書館と直江津図書館で貸し出しを行うそうです。ぜひ一度聴いてみてください。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常は1時間当たり0.016～0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 4月29日(水) | 5月13日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.046 | 0.053 |
| 上越北消防署 | 0.057 | 0.047 |
| 新井消防署 | 0.047 | 0.050 |
| 頸北消防署 | 0.043 | 0.050 |
| 頸南消防署 | 0.047 | 0.053 |
| 東頸消防署 | 0.040 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.040 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.057 | 0.056 |